

カワセミとの出会い



飛ぶ宝石 カワセミ

今から30年前、私は神奈川県の高校に通っていました。当時生物部に所属していたのですが、入部した頃は生物への興味はさほどでもなく、仲間たちと遊んでばかりいました。そんなある日、部室で1冊の古いノートがあるのに気付きました。何年も前に卒業した生物部OBの書いたカワセミの観察記録です。カワセミは河川や池、沼に生息し、魚や両生類などを食べる小型の鳥です。頭から翼にかけてはエメラルドグリーンに覆われ、背中にはコバルトブルーのラインと、とても美しい姿が特徴です。ノートには毎日のように高校近くの川でカワセミを観察したことが書かれていました。「そんな美しい鳥が近くにいるなら」と、友人を誘ってノートに書かれていた川に行ってみました。かなり宅地開発が進んでおり、護岸もびっしり整備されています。一日川ぞいをとぼとぼと歩き、夕方になってきました。もうこの川にカワセミはいなくなったのかと思ったそのときです。「ピーーーーーッ」という鋭い鳴き声とともにカワセミが川面を飛んでゆきました。その姿は想像していたよりもずっと美しく、きらきらと輝いて見えました。

それからは放課後になると川に出かけ、カワセミを探すようになりました。慣れてくるとよく停まる木もわかり、魚を捕る様子も頻繁に観察できるようになりました。カワセミのオスとメスはくちばしの色で見分けられます。オスのくちばしは上下とも黒ですが、メスの下のくちばしはオレンジです。そこに生息している

カワセミが数羽いることもわかってきました。ペリット(骨などの未消化物を吐き戻したものを)をひろって中身から食べ物を調べたりもしました。今思えば調査ともいえないようなものでしたが、とにかく川に通い続けました。その後、カワセミの姿を映像におさめたいと思い、8ミリフィルムの中古カメラを購入して1本の映画をつくりました。後輩たちのためにと映画フィルムも観察ノートも部室に残して卒業したのですが、残念ながら生物部はやがて廃部となり、フィルムやノートも部室取り壊しのときに失われました。

私が動物の研究を将来の仕事にしたいと思ったのは、このカワセミがきっかけです。大学に入ったら動物学を勉強して、鳥の研究をしようと決めました。その後、鳥類ではなく哺乳類を専門とするようになりましたが、今でも野外調査の途中にカワセミを見かけるとうれしくなります。北海道では夏鳥で、本州から渡ってくるようです。夏の間は数センチほどの魚がたくさんいる川や池ならどこでもカワセミがいる可能性があります。警戒心が強いので、近くでゆっくり観察するのは難しいですが、飛ぶ宝石とよばれるその姿をぜひ探してみてください。(村上隆広)

発行 知床博物館協力会 2016.7.24
099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49
斜里町立知床博物館内
TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257
<http://shiretoko-ms.sakura.ne.jp/>